

29.  $\beta_2$ -マイクログロブリン測定キット (SD-8567) の基礎的・臨床的検討 ……久保 嘉彦他…1380
30. 血清微量物質の安定性の検討  
——凍結融解のくりかえしによるプール血清の安定期間について—— ……宇佐美政栄 …1380
31. ヒト C 末端および N 末端 PTH の Radioimmunoassay ……福永 仁夫他…1381
32. 培養細胞における  $^{67}\text{Ga}$ -citrate,  $^{59}\text{Fe}$ -citrate および  $^{125}\text{I}$ -transferrin の動態の比較 ……村中 明他…1381

## 一 般 演 題

### 1. N-isopropyl I-123 p-iodoamphetamine (IMP) による 脳梗塞のシンチグラフィ

北村 暢康 田中 寛 絵野 幸二  
安井 清 古川 雅彦 児玉 光史  
倉橋康二郎 加藤 博和 石田 哲哉  
(島根医大・放)

脳梗塞 10 例に IMP による脳シンチグラフィおよび SPECT を施行し、X 線 CT と比較検討した。Planar 像では、7 例で perfusion の低下した部位を指摘できた。SPECT では、梗塞巣は全例で perfusion の低下した部位として描出された。SPECT と X 線 CT を比較した場合、半数の症例で異常範囲が CT よりも大きく描出され、CT よりも小さく描出されたのは 1 例のみであった。また、2 例では、CT の異常部位と血管支配の異なる領域にも、SPECT で異常が認められた。

### 2. SPECT を用いた $^{123}\text{I}$ -amphetamine (IMP) による脳 血管障害の評価

河村 正 村瀬 研也 飯尾 篤  
浜本 研 (愛媛大・放)  
宮川 正男 (愛媛県立今治病院・放)

各種脳血管障害患者に  $^{123}\text{I}$ -IMP 静注後 SPECT 像を得て、他の検査法と比較検討した。IMP-SPECT 像は、X 線 CT で異常を認めた部位に一致して、全例で血流欠損ないし低下による変化を描出できた。X 線 CT で正常であった Acom 動脈瘤術後例で異常像が得られたが、血管れん縮による血流減少を描画したものと考えられた。また、 $^{81\text{m}}\text{Kr}$  による SPECT 像とほぼ同一分布像を示したが、高度の IC Stenosis に対し STAMCA 吻合術を行った症例において、 $^{81\text{m}}\text{Kr}$  法では頭蓋内血流分布を把握し難かったのに対して、IMP 法では、治療および病期による血流分布の変動を描画し得た。 $^{123}\text{I}$ -IMP

は、静注法で脳血管障害時の血流分布変動を描画し得て、臨床的に有用な検査法となる可能性を有すると考えられた。

### 3. $^{67}\text{Ga}$ -citrate の唾液腺への集積——照射の影響について——

須井 修 竹治 励 嶋津 秀樹  
渡辺 紀昭 (徳島大・放)

$^{67}\text{Ga}$ -citrate の唾液腺への集積程度を 4 段階に Grade 分類し、放射線治療による影響を検討した (照射群: 38 例, 対照群: 53 例)。

(1) 対照群との比較において、唾液腺への集積程度をスコア化することにより、有意差 ( $p < 0.001$ ) が認められた。

(2) 照射線量と Grade 分類との比較では、明らかな差は認められなかった。

(3) 放射線治療後の経過時間と Grade 分類との比較では、明らかな傾向は認められなかった。

(4) 唾液腺への集積に左右差の認められた症例では、ほとんどが片側照射例であり、最低 800 rad より左右差がみられ、最高 7 か月後まで左右差が認められた。

### 4. 唾液腺の腫瘍性病変における $\text{Ga-67}$ および $\text{Tc-99m-pertechnetate}$ シンチグラフィ

曾根 照喜 大塚 信昭 福永 仁夫  
森田 陸司 柳本 真一 友光 達志  
村中 明 (川崎医大・核)

今回われわれは、病理組織学的に診断が確認し得た唾液腺腫瘍 14 例について、 $\text{Ga-67-citrate}$  (Ga) および  $\text{Tc-99m-pertechnetate}$  (Tc) シンチグラフィと Tc による排泄機能検査を施行し、その有用性を検討した。Ga の強い集積は、14 例のうち原発性および転移性の悪性腫